

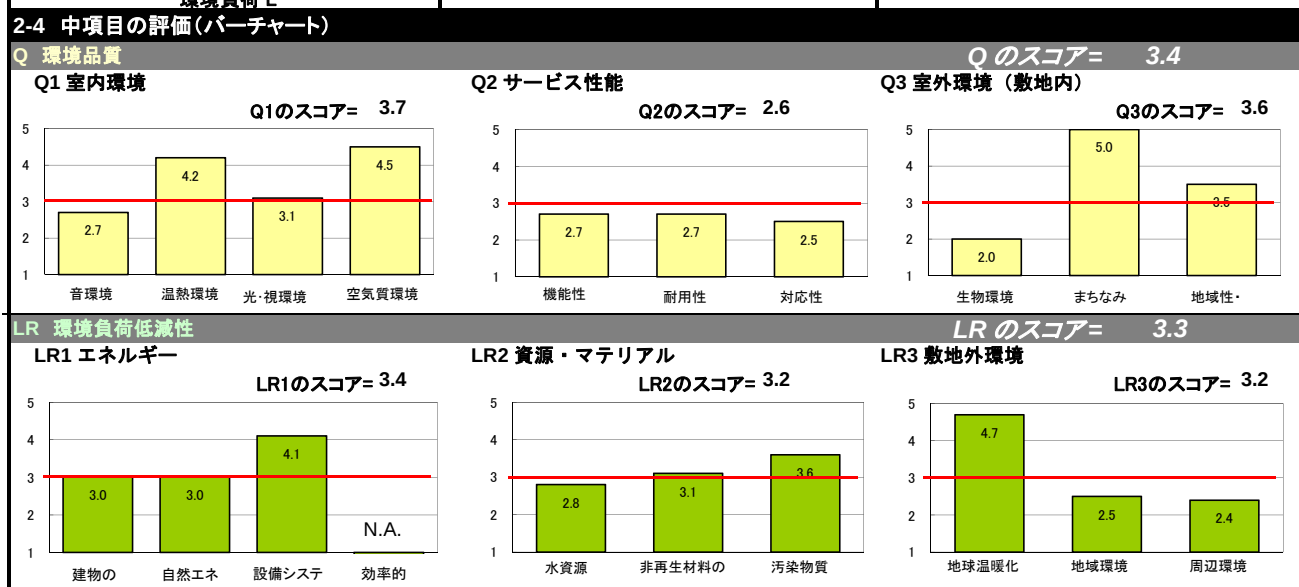
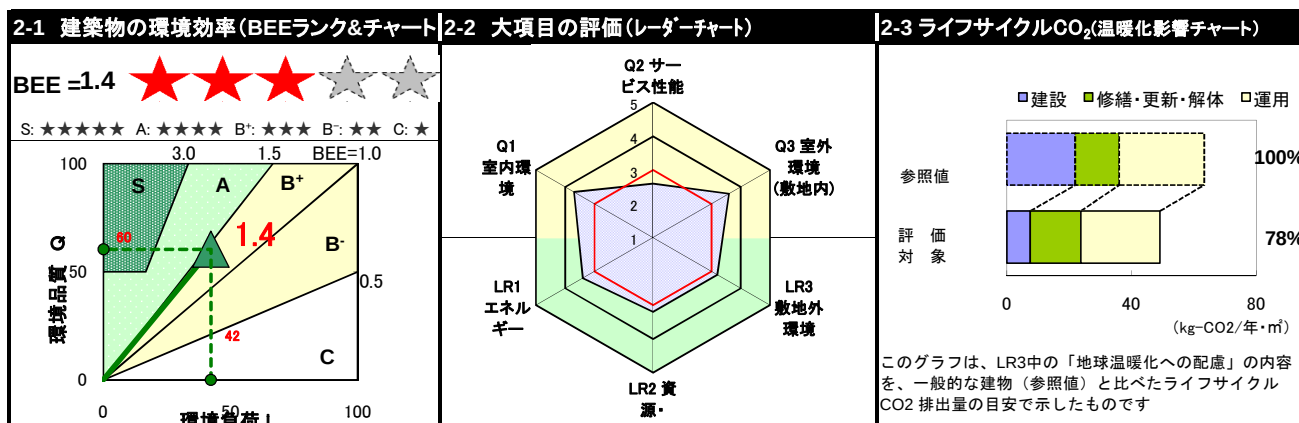


新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	三条22棟(仮称)	階数	地上5F	
建設地	京都府京都市	構造	RC造	
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	223 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2011年2月 予定	評価の実施日	2009年4月13日	
敷地面積	2,422 m ²	作成者	都市居住文化研究所 朝日	
建築面積	992 m ²	確認日	2008年7月10日	
延床面積	3,848 m ²	確認者	〇〇〇	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
環境負荷の低減に積極的に取り組む計画としている		注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価しにくい環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 断熱材を設けて外界からの熱的侵入の抑制をはかった	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	Q3 室外環境(敷地内) 京都らしい意匠を採用し周辺の旧町並み景観を継承しつつ新たな京都らしい景観づくりに努めた
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR3 敷地外環境 敷地内の道路沿いのオープンスペースを設け、沿道景観を形成するとともに地域のコミュニティの場を創り出した

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される